

べっぴんはっとうたけがわらくらぶ

別府八湯竹瓦倶楽部

大分県別府市

【活動概要・効果】

☆町あるきや文化活動を基本とするまちづくり

○自ら行動する市民グループとして設立し、竹瓦界隈の活動を中心にしながら市内全域に拡大していき、町あるきを通じた地域の再発見や文化活動を基本とするまちづくり活動を展開しながら、別府八湯全域にまちづくりの核となる人材の育成に努めている。

☆「竹瓦かいわい路地裏散歩」等の先駆的な町あるきの活動は、別府八湯全体に広がりを見せ、11団体13コースによる「別府八湯ウォーク」として定期的開催され、地域住民自らがボランティアガイドとなり「住んでいるまち」を案内するスタイルが定着し、大手旅行会社のツアー企画や観光情報誌等でも取り上げられるなど人気を博している。八湯ウォークガイドは全体で現在100名を越え、それぞれが各地域のリーダーとして地域を盛り上げる活動をしており、町あるきから生まれた様々な地域独自の文化活動が活発に展開されている。さらに地域住民をはじめ学生等のまちづくりの核となる人材育成にも積極的に取り組んでいる。このように自立して継続できる町あるきの仕組みは大変に注目されていて、全国から視察研修が相次いでいる。



竹瓦かいわい路地裏散歩

《人員確保での工夫・苦労》

一時は高齢者が多く活気をなくしていた別府温泉のシンボル「市営竹瓦温泉地区」を盛り上げようと、平成10年に年齢・職業等が違う近所仲間4名が集まって、お金をかけずに何か楽しいことをやろうと思い立ったのが活動のきっかけである。これまでの様々なまちづくり活動に加えて最近特に人づくりに力を入れており、日本初の女性バスガイド村上アヤメさん（97歳）や流しの演歌手コンビはっちゃん・ぶんちゃん（82歳・77歳）等の再登板・さらに地元の元気なママさんや子ども達からなる「湯のまちママさんガイド」や「湯のまちキッズガイド」等のすばらしい人材が育ってきており、その活躍ぶりが全国的に注目されている。

《活動資金確保での工夫・苦労》

「楽しくなければ続かない」という言葉をまちづくりの合い言葉にして、別府八湯竹瓦倶楽部の活動は決して無理をしない身の丈にあった所からスタートを行った。そのためにも予算がかからず、かつ地域の人々が楽しんで元気になるようなことを取捨選択しながら事業を行った。実施にあたっては地域特有の資源である共同温泉等を活用するために、多くの人たちにいろいろなアイデアを出し合って協議しながら活動を発展させていった。

【現場の声】

竹瓦倶楽部のまちづくりコンセプトは、地域住民が主体となって竹瓦温泉周辺の歴史や風情ある街並みの再発見さらに温泉を活用して、地域の人々がいろいろな人と交流しながら心身ともに元気になってもらうことである。10年前位から「歩くシンポジウム」として開催されている「竹瓦かいわい路地裏散歩」を、現在も月4回ペースで昼夜定期的開催を続けており、これまでの参加者は約2万人を超えていて県内外の多くの参加者にまちづくりの楽しさや感動を与えている。この地道で楽しいまちづくり活動の拡大により、地元の人は県内外の参加者との交流の機会が増加して住民が地域に対して愛着心や誇りを持つようになってきており、清掃活動やまち案内さらに花いっぱい運動等を通して地域住民同士の「心のきずな」が強くなってきている。

～別府八湯竹瓦倶楽部さん



夜の路地裏散歩 流しのはっちゃん・ぶんちゃん